



令和5年度 ふるさと教育推進事業

浜田市内小学校・中学校

ふるさと教育取組事例集

小学校 16校

中学校 9校



浜田市教育委員会 学校教育課

ふるさと教育 取組事例（小学校）

学校	学年	教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)	頁
原井小	1	生活	むかしあそびをたのしもう	地域の方	1
雲雀丘小	5	総合	「浜田城周辺調査隊」	浜田城址・外ノ浦・浜田城資料館	2
松原小	3	社会	人々のくらしのうつりかわり	昔の生活の様子に詳しい地域の方	3
石見小	6	総合	SDGs プロジェクト	国府海水浴場・キヌヤプリル店 石見まちづくりセンター シーライフ浜田・石央文化ホール 県立大学よさこいサークル 浜田浄化センター・環境課の方	4
美川小	2	生活	大きく育てわたしのやさい	保護者, 地域ボランティア	5
周布小	3	総合	発見! 浜田のじまん	地域講師	6
長浜小	4	総合	きれいな長浜の海を目指した クリーン大作戦	地域ボランティア 熱田海岸の清掃活動	7
国府小	6	総合	「ふるさと浜田のSDGsを考えよう」	浜田市の産業, 文化の振興に携わ っている人 地域コーディネーター	8 9
三階小	4	総合	浜田市の伝統文化について調べよう	石州和紙会館・柿田面工房 植田蛇胴製作所	10
雲城小	5	総合	食を通して考えよう ～田んぼの米作り活動を通して～	おぐにまちづくりセンターてごの会 食生活改善推進協議会 浜田の海を守る会	11
今福小	全校	生活 総合	今福のすてきな田んぼ	今福, 美又, 久佐まちづくりセンター 地域の方	12
波佐小	全校	体育	6年間で上手になろう ～スキーの技能習得を目指して～	本校卒業生（講師） 大佐スキー場	13
旭小	5	総合	米作り体験	今市まちづくりセンター 今市地区の地域の方 旭ふるさと祭り	14 15
弥栄小	1・2	生活	春をみつけよう	まちづくりセンタースタッフ 地域の自然, 野外散策	16
三隅小	6	総合	三隅の伝統「石州和紙」づくり	楮・石州和紙・石州和紙会館 和紙職人・灯ろう祭り	17
岡見小	5	総合	岡見米作りプロジェクト ～お米の大切さを、伝えよう～	岡見まちづくりセンター 齋藤重徳さん	18

※ 総合：総合的な学習の時間

ふるさと教育 取組事例（中学校）

学校	学年	教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)	頁
第一中	3	家庭	読み聞かせをして保育園児と交流しよう（保育実習）	浜田一中校区地域コーディネーター 学校図書館司書 みのり保育園	19 20
第二中	1	総合	「身近な課題を仲間と探究し、解決しよう」	地域企業の方 市役所職員の方	21
第三中	2	総合	ふるさと学習	まちづくりセンター (長浜・周布・大麻) 地域スタッフの方	22
第四中	全校	総合	しめ縄づくり交流会	まちづくりセンター 地域講師	23
浜田東中	1	総合 技術 家庭	ふるさと学習 石見畳ヶ浦の巻 日常食の調理～ますますおいしい 魚の調理「ふるさと浜田の水産業」	浜田市観光協会 島根県立石見海浜公園 国府まちづくりセンター 浜田市水産振興課・商工労働課 寺本浩一さん（シェフ）	24 25
金城中	2	総合	ふるさと再発見学習	まちづくりセンター（6地区） 各地区で訪問した施設等	26
旭中	1	総合	旭町の再発見ツアー 旭町の新しい行事の提案	各地域まちづくりセンター 地域の生産者 浜田市教育委員会旭分室	27
弥栄中	2	総合	弥栄の魅力発信	弥栄の自然、特産品、 神楽社中・弥栄支所 杵束、安城まちづくりセンター	28
三隅中	2	総合	防災学習	防災士・まちづくりセンターの方 地域の方・三隅中央会館 避難所設備・三隅消防署の方 三隅防災自治課の方	29 30

※ 総合：総合的な学習の時間

ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立原井小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	生活科	むかしあそびをたのしもう	地域の方
ねらい		地域の方と昔遊びを楽しむ活動を通して、昔遊びの面白さに気付くとともに、遊びを工夫したり、地域の方とのふれあいを楽しんだりして、自分の生活を楽しくすることができるようにする。	

1 取組の概要

地域の方と一緒に昔遊びをする活動を通して、地域の方と触れ合い、昔遊びを楽しむ活動を計画した。けん玉、こま、あやとり、お手玉、だるま落としの5つの遊びを準備した。事前に児童だけで昔遊びに取り組むことで、「うまくいかないな、どうすればもっと上手になれるのだろう」という思いが児童の中に生まれ、地域の方に教えてもらいたいという気持ちを引き出すことができた。当日は、児童を5つのグループに分け、地域の方には、各グループに入ってもらい、昔遊びを通して、触れ合いながら、交流を深めた。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(郷土愛・コミュニケーション)

自分たちの地域には、自分たちにいろんなことを教えてくれる地域の方たちがいることが分かり、地域に愛着をもつとともに、地域の方と楽しく昔遊びをすることで、いろんな人とコミュニケーションを図る力を高めたいと考えた。

3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身についたか等)

(郷土愛・コミュニケーション)

地域の方に昔遊びを教えてもらうだけでなく、子ども達が地域の方に教える場面も見られ、子どもたちも地域の方も楽しむことができた。また、「ふるさと先生(地域の方)に教えてもらって、こまが回せるようになって嬉しかった」等、地域の方に教えてもらうことの嬉しさや楽しさに気づく姿が見られた。

4 課題や今後の展望

地域の方に教えてもらったことを活かして、昔遊びの練習を続けて、校内で昔遊び発表会をしたい。



(こま)



(あやとり)



(お手玉)

ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立雲雀丘小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5	総合的な学習 の時間	浜田城跡周辺調査隊	浜田城跡 外ノ浦 浜田城資料館
ねらい		身近にある浜田の城跡や港（外ノ浦）について、見学をしたり資料を使って調べたりすることを通して、浜田の歴史や良さを知り、ふるさと浜田を大切にしようとする気持ちをもつ。	

1 取組の概要

はじめに、浜田城跡・外ノ浦について知っていることや、調べてみたいことを挙げ、調べるテーマを決めた。調べる際には「ふるさと浜田の50人」「ふるさと浜田の歩み」、浜田市観光パンフレットなどを使った。また、浜田城跡・外ノ浦・浜田城資料館を見学した。見学の際には、浜田市役所の川本裕司さんをお願いをして、案内していただいた。

学習して気づいたことや分かったことを地図にまとめたり、学習成果発表として保護者や全校に発表したりした。



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

実際に見学することで、ふるさとの歴史や身近な海について、関心を高めることができたようにした。

(学力育成の視点から)

インターネットや書籍、浜田市観光パンフレットを活用して情報収集することで、情報活用能力の育成を目指した。



3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか）

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

浜田城跡には、3年生の時に遠足で行ったことがあったようである。しかし今回は、歴史を学ぶという目的で、再度見学した。児童からは「そんなこと（歴史）があったなんて知らなかった」「前（3年生の時）は気づかなかったけど、確かに海が見える」といった声があがり、新たな発見があった。

(学力育成の視点から)

調べたことや見学して分かったことをどのようにして伝えるか、相手や場によって使い分けることができた。劇のようにして発表すること、掲示できるように、地図や年表にまとめることなどを経験し、情報活用能力が身についた。



4 課題や今後の展望

歴史については、5年生の児童にとって理解が難しい面もあったが、どの児童も意欲的に取り組んでいた。今後も、地域の教育資源である（ひと・もの・こと）をもっと効果的に活用する方法を考え、よりよい児童の学びにつながるようにしていく必要がある。

ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立松原小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	社会科	人々のくらしのうつりかわり	昔の生活の様子に詳しい地域の方
ねらい		昔の日用品の見学を通して、その頃の暮らし方や現在につながる工夫などについて学ぶ。	

1 取組の概要

- ・昔の道具（当日は9種類の道具を持参いただいた）についての説明を聞く。
- ・児童から出た質問に答えていただく。
- ・道具に実際に触ったり、身につけたりする。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

- ・地域の方に教えていただくことで、日本のどこかの話ではなく、地域の身近なところで実際に使われていた道具として受け止めることができた。

（学力育成の視点から）

- ・身近でしかも実際に使われていた道具を見たりさわったりできたので、その後の学習意欲がさらに高まり、本などでの調べ学習にも積極的に取り組むようになった。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

- ・児童は、身近にある材料で手作りされた道具への関心が高かった。身近にある物を使って何とか生活が豊かで便利になるように工夫してきた人たちが、自分たちの地域におられたことを誇りに感じていた。

（学力育成の視点から）




- ・ないことを嘆くのではなく、ある物を工夫して活用することの重要性を、先人の生き方から学ぶことができた。



4 課題や今後の展望

- ・地域にはもっとたくさんの人材や資料や事例が眠っているのではないかと感じさせられた時間だった。コーディネーターの方との連絡を密にし、地域のお宝に子どもたちがより多く接していけるようにしていきたい。

ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立石見小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
6	総合的な学習 の時間	SDGs プロジェクト	国府海水浴場、キヌヤプリル店、石見まちづくりセンター、シーライフ浜田、県立大学よさこいサークル、石中央文化ホール、浜田浄化センター、環境課の方
ねらい		自分たちの住む地域の良さや課題を知り、みんなが過ごしやすい町にしていくための方法を考える活動を通して、自分の知らない浜田市の良さに気付くとともに、浜田市がより良くなるための取り組みを考えられるようにする。	
<p>1 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○SDGs について調べる中で、浜田市の良さや課題を知る。 ○グループに分かれ、自分たちにできることを考え、実践する。 ○実践の成果や課題をパワーポイントにまとめ発表する。 <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○SDGs の 17 の目標を視点に、浜田の良さや課題に目を向けられるようにした。その際、活用した教育資源の情報を提供しながら、子どもが自ら選択して資源を活用できるようにした。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○浜田市の現状について専門家から話を聞いたり、地域のものに直接触れ合ったりしたことによって、今まで見えてこなかった良さや課題を見つけることができた。 <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の良さや他県・他地域との違いに気付けるようになった。 ○地域の課題解決に貢献しようとする態度が身についた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループ活動を通して、課題を解決するための方法を考えたり、より良くするための取り組みについて議論したりすることにより、対話的な学習につながった。 <p>4 課題や今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各クラスの実践をもっと共有する機会があればよかった。 			
			
			

ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立美川小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	生活科	大きく育てわたしのやさい	保護者・地域ボランティア
ねらい		野菜作り・収穫の体験や野菜について調べる学習，地域の方々との関わりを通して，ふるさとへの愛着を深めることができる。	

1 取組の概要

児童が育てたい夏野菜を決め，学校の畑で地域の方と一緒に育てた。苗植え，支柱立て等を手伝ってもらった。苗植えの際には，地域ボランティアの方に育て方や世話の仕方などを教えてもらい，一緒に苗植えを行った。その後も，地域ボランティアの方に畑の様子を気にかけて頂き，すくすくとたくさん夏の野菜が育った。採れたての野菜を学校でピザにして「おいしい！ナスもピーマンも食べられるよ！」と苦手な野菜も克服できた。また，成長した立派な野菜は2～3日おきに収穫し，お家に持ち帰り美味しく食べた。



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

美川の自然の豊かさや人々の温かさ，地域ボランティアの方のふるさとに対する思いを感じることで，ふるさとに対する愛着を深める。

(学力育成の視点から)



思考力や表現力を高めるために，観察して記録したことを，記録カードにまとめた。色・形・大きさ・におい・手ざわり等，気付いたことを文章でまとめた。また，タブレットを使って野菜の様子を写真に撮り，成長の様子を記録した。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

地域ボランティアの方と苗植えをしたり野菜の成長を見守ったりしていくことで，野菜作りの楽しさだけでなく交流することの楽しさを実感した。美川で育てた野菜はとても美味しいことに気づき，これからも続けていきたいという気持ちをもつことができた。

(学力育成の視点から)

野菜作りを通して，一人一人が野菜をよく観察し，触ったり，見たり，嗅いだりしてわかったこと，野菜について調べたことを「野菜絵本」にまとめた。



4 課題や今後の展望

苗植えから支柱立て，野菜の成長の見守りと長期間を通して，地域ボランティアの方にお世話になっている。もっと交流の回数を増やしたいという地域の方からの要望があり，今年は4回野菜づくりについてアドバイスを頂いた。年間計画に基づいて，今後も継続的に活動をしていきたい。

ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立周布小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合	発見！浜田のじまん！	地域講師
ねらい	昔から伝わる地域の祭りや神楽の話聞くことを通して、郷土の伝統行事や伝統芸能にふれ、神楽を調べていくきっかけにする。		
<p>1 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○浜田の自慢できるものについて話し合う。 ○「石見神楽」について、知っていることや調べてみたいことを出し合う。 ○地域講師をお招きし、石見神楽についてのお話を聞いたり、体験活動をしたりする。 <p style="text-align: center;">【西村神楽社中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習したことを新聞にまとめる。 <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p style="padding-left: 20px;">（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ふるさとの伝統文化の良さをより実感できるよう、実際に衣装や道具等を使った体験活動を計画した。 <p style="padding-left: 20px;">（学力育成の視点から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の学習意欲を高めたり、石見神楽に対する理解をより深めたりするために、質疑応答の時間を設けた。 <div style="text-align: right; margin-right: 20px;">  </div> <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）</p> <p style="padding-left: 20px;">（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○石見神楽という身近な素材ではあるものの、学習を通して初めて知ること多かった。児童の成果物からは、そうした新たな発見に対する感動も読み取ることができ、改めて石見神楽の魅力を再認識することができた。 <p style="padding-left: 20px;">（学力育成の視点から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話を聞いて学んだことや体験を通して知ったこと、また書籍で調べたことなど、伝えたい内容に合わせて情報を取捨選択しながら新聞にまとめていた。 <p>4 課題や今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今年度の取り組みをもとに、地域の教育資源である（ひと・もの・こと）をもっと効果的に活用する方法を考え、よりよい児童の学びにつながるようにしていく必要がある。 			

ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立長浜小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
4	総合	きれいな長浜の海を目指したク リーン大作戦	地域ボランティア 熱田海岸の清掃活動
ねらい		海岸の清掃活動をしている人の取り組みや思いを知って環境を大切にしようと思う気持ちを高める。	

1 取組の概要

- ・熱田海岸の清掃活動をボランティアの方と一緒にする。
- ・清掃活動をされている方のお話を聞く（清掃している思い、願いなど）



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・わたしたちの住む長浜には、海岸をきれいにしようとして自主的に清掃されている人がいることを知り、環境を大切にしていこうという態度を育てる。
- ・同じ地区に住む人との交流を深め、その町の一員であるという自覚がもてるようにする。
- ・地域の方との交流を深め、質問したり聞いてみたりすることで、気を付けていることを聞く。



(学力育成の視点から)

- ・どうなったらゴミが海岸に流れ着くのかを考える。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・地域の方とのコミュニケーションをとることで、地域の人を知ることができた。
- ・次に海岸に来る時は率先してゴミを拾ったり捨てないようにしたりしようとする意欲がもてた。

(学力育成の視点から)

- ・終えるゴミと燃えないゴミの見分け方を学んだ。
- ・人の行動が自然環境に及ぼす影響について学び、普段の生活に生かそうとする態度を養えた。

4 課題や今後の展望

- ・今年度と同様に人材を確保するために、まちづくりセンターと学校との間の事前打ち合わせを年度初めにしておく。

ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立国府小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
6	総合的な学習 の時間	ふるさと浜田のSDGsを考えよう	浜田市の産業、文化の振興に携わっている人 地域コーディネーター
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと浜田の人口減少の現状を知り、課題を考える。 ・いろいろな人の話を聞き、浜田を元気にする方法を考え発信する。 	

1 取組の概要

(1) オリエンテーション

- ・6年生学年テーマ「SDGs」を「地域振興としてのSDGs」として考えよう。
- ・浜田市は人口がどんどん減少している現状を知り、そのことでどのような問題、課題があるのか話し合おう。
- ・ふるさと浜田が、継続・発展するためにできることを自分たちでも考えよう。



(2) 浜田市の産業、文化の振興に携わっている人に出会って話を聞く。

①令和5年6月27日(火) 14:00～15:00

はまだふれあい食堂 細川 豪 様

- ・ふれあい食堂の立ち上げに至った経緯・コロナ禍のふれあい食堂
- ・運営にかかる経費の調達にかかる話 ・ふれあい食堂の今後の見通し

②令和5年7月7日(金) 13:35～14:35

ゲストハウス経営 齋藤 慎介 様

- ・地域おこし協力隊としてIターンに至った経緯
- ・古民家をゲストハウスにリノベートしたお話
- ・浜田市内3つのゲストハウスを運営するための工夫

③令和5年10月5日(木) 10:40～11:40

有限会社 平野屋 平野 真里香 様

- ・歴史のあるお店をどのような戦略で経営しているか
- ・地方発送やふるさと納税の返礼品のこと
- ・お茶の魅力 ・平野屋の今後の見通し

④令和5年10月11日(水) 14:20～15:20

浜田市役所観光交流課 石田 都 様

- ・神楽の魅力 ・舞姫社中(女性が舞い手の神楽)をしようと考えた理由
- ・浜田市の神楽の今後の見通し

⑤令和5年11月20日(月) 14:00～15:00

有限会社 岡村工務店 拝上 理恵 様

- ・キクラゲ栽培を手掛けたきっかけ
- ・レトルト商品の開発について
- ・ブランド化などの戦略について

⑥令和5年12月1日(金) 9:35～10:20

島根大学 医学部 久佐 洗陽(あさひ) 様

- ・浜田市の地域医療の現状
- ・SDGsの観点からの地域医療
- ・浜田市の地域医療の展望について



- (3) 浜田を元気にするための提案をする
令和5年11月17日(金) 学習成果発表会
チームごとに調べたり考えたりしたことをプレゼンテーション資料にまとめ、全校児童や保護者、地域の方、ゲストティーチャーの方に向けて、発表した。



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるためにどのような意図をもって活用したか。

この単元で付けたい力

<ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から>

○自分の住むまちへの関わり方を選択、判断する問題を解決するという過程をたどるばかりでなく、自分がいかに関わるか自分にとっての最善解、集団にとっての納得解を見つけようとする態度を養いたい。

<学力育成の視点から>

○問題解決のプロセスを方法知として知る。

問いの発見→課題設定→分析→結論→新たな問いの発見→・・・といった問題解決のプロセスを実際に体験することで、問題解決にあたってはこのようにアプローチするとよいということを学ばせたい。(やがては、自分で見つけた課題に自分なりのアプローチで繰り返し探究しようとする主体性のある学びの力へと繋げていきたい。)

3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)

<ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から>

「持続可能な社会、浜田はどうか。」と問うたところから、児童は現状に向き合うこととなった。しかし、浜田の良さに魅かれてIターンされた方やふるさとを元気にしよう頑張っておられる方の話を聞き、勇気や元気をもらおうと同時に、物の見方や発想の仕方を学ぶことができた。成果発表会での「浜田を元気にする提案」でも、「〇〇さんから教えてもらったこと」を紹介したり、さらに自分たちのアイデアを付け加えたりしながら、具体的な提案をすることができていた。

<学力育成の視点から>

毎回講師の方が行われるプレゼンをお手本として、成果発表会でグループごとにタブレットで作成したスライドを使ってプレゼンをすることができた。(情報収集・発信する力)

また、講師の方は一方的な講義ではなく、ともに現状や課題を共有したあと、児童のグループワークや協議の時間を設定された。そこでは大人・こどもの枠を超えて、出された意見を大切にしていって賞賛したり、コメントしたりされた。児童は自分たちの考えを出すことの楽しさを味わい、進んで協議することができるようになった。回を追うごとに内容も深まってきた。

最終回の地域医療の現状を受けてのグループワークでは、「医療センターと地域の診療所のネットワークをしっかりと築くこと」「そのネットワークがあることを多くの人に知らせること」などのアイデアや意見が出てきた。(主体的・協働的に取り組む態度)

4 課題や今後の展望

講師の方のお話を聞くことは、学びも刺激も大きい。しかし、小学生にとっては聞きなれない用語や難しい内容もあった。講演の後、学級で振り返りながら、学級担任が補足説明をすることも必要であった。地域講師の方に来ていただくには、連絡・スケジュール調整・打合せなど大変な面もあるがたくさんの講師さんを紹介して下さったコーディネーターの存在は大きい。教師の思いや願い、学びのねらいを明確にして相談をしていくことが大切であると感じている。




今回は、校内発表会での発信で終わったが、さらに地域に発信したり、実践したりすることができればよい。そのためには、5年生からの持続可能な浜田をテーマに2年間を通した学習を組むことも考えていきたい。

ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立三階小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
4	総合的な学習	浜田市の伝統文化について調べよう	石州和紙会館 柿田面工房 植田蛇胴製作所
ねらい		石州和紙をはじめとする，浜田市の伝統工芸品について知り，見学や体験活動を通して地域の伝統文化について理解するとともに，その素晴らしさに誇りをもつことができる。	
<p>1 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 石州和紙の紙すき体験をする。 体験を通して分かったことや，見学で学習したこと，パンフレット等で調べたことをパワーポイントでまとめる。 石州和紙を使って作られている，神楽面や蛇胴について知る。 神楽面や蛇胴について，見学で学習したことやインターネットを使って調べたことをパワーポイントでまとめ，参観日で保護者に発信する。 			
<p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために，どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り，貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域にある石州和紙会館，柿田面工房，植田蛇胴製作所の協力を得て，体験的な活動をしたり，実際に技術を見たり，質問等を行うことで，ふるさとの産業に対する理解と関心を高めたいと考えた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会科の学習で，各地の伝統工芸品について学ぶ中で，浜田市には，技術があることや，伝統芸能として石見神楽が有名であることを知らせた。パンフレットを見たり，ホームページを検索したりするなどの調べ学習を行い，情報を活用する力をつけたいと考えた。また，調べたことを家庭に発信するというゴールを設定することで，児童が主体的に調査や活動ができるように考えた。 			
<p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） (ふるさとへの愛着や誇り，貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 石州和紙の歴史やその品質の良さを調べることにより，石州和紙の素晴らしさを知ることができた。また，石州和紙を使って作られている神楽面や蛇胴について学習をすることで，ふるさと浜田市の伝統工芸品や伝統芸能，それを支える伝統的な技術についても知ることができ，ふるさとに誇りを持つ姿が見られた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 石州和紙や神楽面，蛇胴について分かったことを分かりやすく伝えるために，グループで相談しながら情報を整理してまとめ，主体的に資料作りをする姿が見られた。 			
<p>4 課題や今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の教育資源である（ひと・もの・こと）をリストアップしたり，効果的に活用する方法を考えたりして，児童のより良い学びにつながるように考えていく必要がある。 			



ふるさと教育 取組事例

学校名 浜田市立雲城小学校			
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5	総合的な学習の時間	食を通して考えよう ～田んぼの米作り活動を通して～	おぐにまちづくりセンターでごの会 食生活改善推進協議会 浜田の海を守る会
ねらい		金城(小国地域)の米作り体験や収穫した米を使った調理活動をとおして、地域の良さや、そこに住む人々のふるさとに対する思いにふれ、自分達に何ができるのかを考える。	
<p>1 取組の概要</p> <p>金城町小国地域はおいしいお米が収穫できる地域として知られている。小国で田植えや稲刈りなどの体験を地域の方々と一緒にすることで地域の方の思いを知ることができることや、さらに、小国のお米がおいしい秘密をさぐることで「ふるさとのよさ」を実感できると考えている。また、ふるさとの宝として、小国のお米の良さをPRしたり、活かそうとしたりする活動を通して、地域貢献の意識を高めることにもつながると考え、本活動を設定している。子ども達にもその思いを伝え、金城町の自然の豊かさや人々の心の温かさ、自分達に何ができるかを学んでいく学習を年間通して実施した。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>浜田市や金城町など地域で暮らす人々や自然の豊かさや人々の心の温かさ、故郷に対する人々の愛情を感じ、米づくり、藻塩づくり、調理活動などの体験を通して、自分達に何ができるかを学ぶため。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>① 5年生の社会科の米作りの学習において、身近な題材を取り上げることで「調べてみたい」「もっと知りたい」という、主体的に学ぶ意欲を高めるため。</p> <p>②家庭科の炊飯学習や食生活改善推進協議会さんとの調理活動において、食の大切さに学ぶため。</p> <p>③社会科、家庭科、総合的な学習の時間の学習内容を教科横断的に取り扱うことで、確実な学力の定着をねらうため。</p> <p>④一人一台端末を活用することを通して体験活動を通しての気づきや疑問を個の興味・関心に応じて調べ学習に生かすため。</p> <p>⑤学んだことを学習発表会の場で創作劇として表現豊かにアウトプットし、学びの集大成として保護者に発表するため。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>地域の自慢としてお米を大切に育てておられる地域の方の思いを感じ、ふるさとのよさとして自分の言葉や表現方法でPRをすることができた。また、小国地域でとれたお米を実際に食べてみることで、美味しさを味わったり、お世話になった地域の方に対する感謝の気持ちを学習発表会で発表したり、校内や保護者への販売や全学年へのおにぎり配付で小国米のおいしさを伝えたりすることができた。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>社会科・家庭科・総合的な学習の時間との教科横断的な学習により、課題発見力や情報収集・活用能力、プレゼンテーションによる表現力、体験活動や話し合いによるコミュニケーション能力が身についた。</p> <p>4 課題や今後の展望</p> <p>年間計画に基づいた継続的な活動の実践と自分達に何が出るかを考え実践する力を育っていくこと。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【田植え】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【食生活改善推進協議会さんとの活動】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【藻塩づくり】</p> </div> </div>			

ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立今福小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
全校	生活 総合	今福のすてきな田んぼ	今福・美又・久佐まちづくりセンター 地域の方
ねらい		田植えからもちつき会までの活動を通して、季節の移り変わりを感じたり、地域の自然や人に親しみを持ち、そのよさに気づいたり、進んで関わろうとしたりする。	
1 取組の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ○もち米づくりの作業（田植え・稲刈り・脱穀）を行う。 ○稲の生長を観察する。 ○地域の方と一緒にもち米づくりの活動を行う中で、作業の仕方や道具の使い方などを教えてもらう。 ○収穫と卒業を祝い、地域の方と一緒にもちつきをする中で、これまでお世話になった地域の方との親睦を深め、感謝の気持ちを伝える。 			
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。			
(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)			
<ul style="list-style-type: none"> ○地域の方々との米作りを通して、ふるさとの自然や地域の方とふれあうことの楽しさを味わうことができるようにしたいと考えた。そのために、まちセンと地域講師と事前に綿密な打ち合わせを行い、この活動で子どもたちに身につけさせたい力やめざす子ども像について共有することに努めた。 ○米作りや地域の方々との交流にめあてを持って取り組めるようにするために、活動後にお礼の手紙を書き、3つのまちセンに届けることを伝えた上で活動に取り組んだ。 			
(学力育成の視点から)			
<ul style="list-style-type: none"> ○表現力を高めるために、振り返りの時間として、地域の方々の前で自分の思いや感じたことを伝える時間を設けた。 			
3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）			
(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)			
<ul style="list-style-type: none"> ○もち米をつくる活動や調べた情報を整理し共有する活動を通して、稲の生長や季節の変化、自然のすばらしさなど、どの学年もそれぞれに新たな気づきがあった。 ○地域の方と一緒に活動を行う中で、活動する楽しさを実感することができ、改めて人とのかかわり合うことのよさや大切さに気づく機会になった。 			
(学力育成の視点から)			
<ul style="list-style-type: none"> ○地域の方が取り組んでおられる米づくりやそれにまつわる行事について興味を持ち、各自課題をもって調べ活動（体験も含む）を行うことができた。 			
4 課題や今後の展望			
<ul style="list-style-type: none"> ○今福のすてきな田んぼ（田植え・稲刈り）は全校活動として定着し、児童も地域の方も楽しみにしているところである。3つのまちづくりセンターが連携して協力していただき、地域の方々の参加も多い。高学年が脱穀・餅つきの作業をして、卒業の祝いもちとして全校で家庭に持ち帰ることにしている。児童数の減少により、田植え・稲刈りは、地域の方が一緒に活動してくださる力が不可欠である。 			

ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立波佐小学校		
学年	主な教科等	主に関わる单元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
全校	体育科	6年間で上手になろう ～スキーの技能習得を目指して～	本校卒業生（講師） 大佐スキー場
	ねらい	○学校での体育学習を総合的に生かしながら、6年間を通してスキーの技能を習得する。 ○雪の上で楽しく活動し、元気な体をつくる。 ○助け合う気持ち・挑戦する気持ちを育てる。 ○ふるさとの自然の恩恵や地域の方々の支援・協力を感謝する心を育てる。	
1 取組の概要 ○2グループに分かれて活動を行った。1・2年生は、人生初のスキーがこのスキー教室であったため、講師の方に板の着脱から丁寧に教えていただいた。3・4年生は、令和3年度に経験していたが、家族で行くことがほとんどないため、始めは丁寧に指導していただいた。6年生には、本校卒業生が講師となり、より上手に滑るための技術の習得に励んだ。 ・Aグループ：これまでに身に付けた技能を使って次第に上級コースでの滑走を楽しむ (※その他、Bグループの中でストップやボーゲンができる児童) ・Bグループ：スキーの基礎練習後、発展的な技能を高め、その技能を使って滑走を楽しむ			
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から) ・波佐地域の方がたくさん働いておられるスキー場で、恒例行事のスキー教室ができる喜びを感じると共に、素晴らしい環境に恵まれていることが認識できるようにした。 ・子どもたちが、地域の施設を存分に活用することが、地域の大人にとっての喜びであることを伝え、そこで働いておられる方々と触れ合えるようにした。 (学力育成の視点から) ・6年間かけて、スキー技能の向上を目指すため、一年一年の積み重ねがとても大切になってくる。試行錯誤しながら活動に取り組むために、すぐに手出しせず、見守ることを大切にした。			
3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から) ・本校卒業生を講師に招き、スキーを堪能した高学年は特に、この環境のよさを十分感じることができた。 ・スキー場で働いておられる地域の方から声をかけていただいたり、見守っていただけたことが、励みとなった。 (学力育成の視点から) ・スキー板を履くのも初めてだった1年生の児童が、リフトに乗って、頂上から滑ることができた。一人一人が達成感を感じ、「来年はもっと上手になれるはず」という手ごたえを感じることができた。			
4 課題や今後の展望 近年の雪不足により開催できない年もあることや、講師依頼をする際、人材不足に悩まされることもあるが、今後もスキー教室を開催する方向で調整を行っていきたい。			



ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立旭小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5	総合	「米」について	今市まちづくりセンター 今市地区の地域の方 育苗センター J A坂井さん 地域の田んぼ 西田さん 縄づくり体験 渡辺さん 藁ぼうきづくり 渡辺さん 旭ふるさと祭り
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・育苗について見学をしたり米作り体験をしたりすることを通して米作りについての理解を深める中で、探求課題を見つけることができる。 ・農作業を通して協力する心や生命を育てる難しさや喜び、勤労の尊さを実感することができる。 ・地域の方と交流することでふるさとを愛する気持ちを持つことができる。 	
<p>1 取組の概要</p> <p>4月：育苗センター見学・代かき体験 5月：田植え体験・バケツ稲の育て方についての話 6月：坂本地区棚田見学・農事法人「さかもとのもと」河野さんのお話 9月：育成調査 10月：縄づくり体験・稲刈り体験・脱穀体験 12月：感謝の会 2月：学習成果発表会で作った米を販売（売上金は能登半島地震の義援金とする。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米作り体験を通して、米作りの大変さや収穫の喜びを感じることができた。 ・体験でお世話になった地域の方を招き、「感謝の会」を計画し実施した。 ・能登半島地震の義援金募金活動として、学習成果発表会で収穫した米を販売した。 <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p style="margin-left: 20px;">（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活ではなかなか体験することができない、農作業を通して協力する心や生命を育てる難しさや喜び、勤労の尊さを実感することができるようにした。 ・地域の方と同じ作業をし、交流することでふるさとを愛する気持ちを持てるように、まちづくりセンターと連携をして、J Aの方や田んぼの地権者の方とふれあうことができるようにした。 <p style="margin-left: 20px;">（学力育成の視点から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米作りを通して学んだことについて ICT 機器を活用してまとめる場を設定し、米作りについての知識や理解を深めることができるようにした。 ・米の重さを計ること（算数科）、義援金募金活動を行う（社会科）など、様々な教科等横断的な学習と関連づけるようにした。 			

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

- ・地域の方と協力して米作りをすることで、交流することの楽しさや米作りをしておられる方の努力にふれ、改めて地域のよさを発信していこうとする意欲を持った。
- ・地域米作りに関する知識や専門的な話を地域の方から聞くことを通して、米作りのことについてより深く知ることができた。
- ・米作りを通して地域の方との交流を繰り返すことで、地域の方の温かさを感じ、感謝の会の開催へとつながった。感謝の会で地域の方が喜んでくださる姿を見て、更にふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲を高めることができた。

（学力育成の視点から）



- ・米作りを通して学んだことについて ICT 機器を活用してまとめることで、わかりやすく伝えたりまとめたりする力が付いてきた。
- ・「感謝の会の内容について」や「作った米をどのように活用していくか」など、話し合いの場を設定したことで、考えを伝え合ったり、友達の考えをわかろうとしたりしながらよりよいものにしようとして考える力が付いてきた。その後の活動では、決まったことに対して主体的に取り組む姿が多く見られた。

4 課題や今後の展望

- ・活動を通して、自己の気づきや課題についての振り返りをしたり、友達と共有したりすることを重ねていきたい。
- ・地域の魅力やよさを実感するとともに地域の課題にも注目することで、地域の未来についても考えをもたせていきたい。



ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立弥栄小学校		
学年	主な教科等	主に関わる单元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1・2	生活科	春をみつけよう	まちづくりセンタースタッフ 地域の自然
ねらい		学校周辺の春の植物や生き物を見つけることを通して、季節の変化に気付くこと。学習活動を通して、地域の良さに気付いたり、身近な地域の方との関わりを深めたりすること。	
<p>1 取組の概要</p> <p>①はじめの会（昇降口前） 「学習のめあて等確認」</p> <p>②春を見つけよう（学校周辺） 「野外散策」</p> <p>③春を食べよう（多目的室） 「まちづくりセンタースタッフによる野外草木を使つての簡単調理および会食」</p> <p>④おわりの会（多目的室） 「感想発表・おわりのあいさつ」</p> <p>⑤ふりかえり用紙記入（教室） 「学級でのふりかえり、ふりかえり用紙の記入」</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から） 地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用することを通して、郷土の一員としての自覚を高め、郷土を愛する気持ちを育むとともに、自己の生き方を考える基盤を養うための教育活動に取り組んだ。</p> <p>（学力育成の視点から） 学校周辺の春の植物をまちづくりセンタースタッフの方に説明していただいたり、春の植物の天ぷらを料理していただいたりしたことで、子どもたちが地域に対する愛情や誇りを育む貴重な機会となった。 天ぷらにして食べることができる植物を知ったり、鳥の声などを聞きながら身近な動物について新しいことに気づいたりして、身近な動植物対する一層の興味関心をもつ有意義な学習となった。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）</p> <p>（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から） 弥栄のひと・もの・ことに進んで関わり、そのよさに気づく体験をまちづくりセンターの方と共有することで、地域の人に対する親しみや感謝の気持ちをもった。また、地域の自然について、もっと知りたいという意欲をもった。</p> <p>（学力育成の視点から） この活動を通して、季節の変化や地域の良さに気付くことができた。2年生児童はこのような感想を書いた。「ぼくは、はる見つけで、赤いみを見つけました。つぎにふきを見つけました。ふきは、いっぱいありました。ぼくは、ふきを3本もとりました。」「しらない花がいっぱい分かったので、うれしかったです。たべられるさくらとかをいっぱいてんぷらにしておいしかったです。」</p> <p>4 課題や今後の展望</p> <p>弥栄中学校校区の本校では、「信頼し合い、助け合い、思いやりの心をもった『弥栄』を愛する子」および「主体的に関わり、学んだことを自己表現できる子」を理想の子ども像として実践を重ねている。子どもにとって有意義で価値ある本事例のような実践をこれからも継続することを課題と考えている。</p>			
			

ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立三隅小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
6	総合的な 学習の時間	三隅の伝統「石州和紙」づくり	楮、石州和紙、石州和紙会館 和紙職人 灯ろう祭り
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・三隅の伝統工芸であり、ユネスコ無形文化遺産に登録された「石州和紙」を楮から育て、自分たちの手で卒業証書を作る。 ・「石州和紙」の素晴らしさと、伝統を受け継ぎ守ることの大変さを知り、自分たちにできることを考える。 	
<p>1 取り組みの概要</p> <p>毎年、市教育委員会三隅分室にお世話になり、学校の敷地内に和紙の原料となる「楮」を植え、1月に石州和紙会館で一人一人が自分の卒業証書の紙漉きをしている。</p> <p>4月 : 楮植え 5月～ : 芽かき・草取り作業 7月 : 石州和紙を使った「灯ろう」作り</p> <p>11月 : 石州和紙の出前授業 12月 : 楮の刈り取り・皮はぎ・そぞり作業 1月 : 石州和紙会館で紙漉き作業 2月 : 石州和紙について調べ学習の発表 3月 : 卒業証書完成</p>			
<p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>石州和紙がユネスコ無形文化遺産という地域を代表する工芸品であることに誇りをもたせるために、紙漉き体験だけでなく、出前授業を通して楮を育てたり加工したりする細かい作業工程を体験させ、和紙職人の技を間近でみて指導を受けた。また、地域の願いを感じてほしいと、三保まちづくりセンターの方に13回目を迎える三隅の「灯ろう祭り」の意味とS58災害のことを話していただき、6年生も和紙で灯ろうを作って出品した。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>体験したことや、自分たちで調べたことをまとめ、グループごとに2月の学習公開日に保護者に向けて発表した。</p>			
<p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>4月当初よりも石州和紙への興味・感心の高まりを感じ、意欲的に作業に参加していた。また、伝統工芸士への憧れを感じ、積極的に質問する様子が見られた。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>自分たちでテーマを決めて調べ学習に取り組み、グループごとに成果発表を行った。石州和紙の歴史や専門的な作業工程や知識も詳しく理解していった。</p>			
<p>4 課題や今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通しての活動のため、8月～11月の取組に停滞が見られた。 ・今回は学習公開日に保護者に向けた発表を行ったが、今後、地域への発信活動が行えると良い。 			



ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立岡見小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5	総合	岡見米作りプロジェクト～お米の大切さを、伝えよう～	岡見まちづくりセンター 齋藤重徳さん
ねらい		稲作を通じて地域や自然とのつながりを感じ、自分たちができることを考え、実行しようとする態度を育てる。	

1 取組の概要

社会科の学習と関連付けながら、年間を通して米作りを行った。実際に、田植え、成長の様子を観察、草取りなどの作業、稲刈り、脱穀、精米などの作業を経て、収穫した米を、自分たちが作成したラベルを付け、「ふれあいマーケット」に来られた地域の方へふるまう活動も行った。

また、「まとめの学習発表会」の折には、児童が調理したご飯を保護者に食べてもらう活動にも取り組んだ。



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

米作りについては、身近なようでいて、案外その実態については児童の知識も乏しく、いっしょに米作りを指導してくださる齋藤さんへのインタビューを折々に設定した。

児童が経験を通して感じたことや気づいたことは、新聞やパンフレット、まとめの発表などで情報発信し、地域の方へも児童の活動の様子に関心を持ってもらう。

(学力育成の視点から)

米作りの新聞を作成する際には、情報の取捨選択の場面を意図的に設け、情報活用能力の伸展を図った。また、これまでも学習してきているインタビューの仕方や、情報の整理の仕方について実践を通して多岐に学ぶ機会となった。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

自分たちが収穫した米が一等米に格付けしてもらえたということもあり、学習のまとめ発表会では、地域のよさを誇りに思う児童の姿が見られた。また、地域の方へふるまったコメに関し、地域の方から感謝と励ましのお手紙をいただき、児童は自分たちの活動が認められていることに大きな喜びを味わっていた。



(学力育成の視点から)

- ・長いスパンでの学習を通じたことで、計画的に活動を積み上げる経験ができた。
- ・新聞、パンフレット、パワーポイントなど、様々な発表様式を体験することができ、それぞれのよさを感じる事ができた。

4 課題や今後の展望

- ・来年度から高学年も複式学級となるので、毎年の活動としては実施が難しい。
- ・やり方や内容を工夫しながら、今年度の体験が次の学年へと引き継がれていくように工夫していきたい。

ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立第一中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	家庭科	読み聞かせをして保育園児と交流しよう（保育実習）	浜田一中校区地域コーディネーター 学校図書館司書 みのり保育園
ねらい		保育学習の一環として、隣接する保育園を訪問し、幼児と関わることで幼児への関心や理解を深める。また、幼児と関わる一つの方法として絵本の読み聞かせに取り組み、地域の読み聞かせのボランティアの方々とも交流しながら幼児へのかかわり方を理解したり、将来の家庭生活に関心を持ったりする一助とする。	
<p>1 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 浜田一中では、以前は3年生が家庭科の授業の一環で石見幼稚園を訪問し、交流活動を行っていた。しかし近年はコロナの影響で中止になっていた。昨年度から、保育の学習で読み聞かせの活動で地域の方々との交流をし、今年度は、さらにみのり保育園を訪問し、絵本の読み聞かせを通して交流する計画を立てた。 ・ 読み聞かせ講習会 <ul style="list-style-type: none"> 1 クラスを幼児の年齢別の5グループに分け、絵本を選んでおく。 →絵本の選定については、図書館司書に依頼し、各年齢別に10冊程度用意していただいた。地域の読み聞かせボランティアの方々に招いて読み聞かせ講習会をする。 →地域コーディネーターに依頼し、読み聞かせのボランティアの方々の募集や調整をしていただいた。 ・ みのり保育園での保育実習 <ul style="list-style-type: none"> 1 1歳児～5歳児のクラスに分かれていき、講習会で練習した絵本の読み聞かせをして園児と交流する。 10月下旬に計4回実習を行った。実際の交流時間は30分程度。 <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実習の学習に読み聞かせの活動を取り入れることで地域の読み聞かせボランティアの方々との交流をすることができた。生徒が小学生時代に、読み聞かせをしてくださったボランティアの方も多数参加してくださり、成長した子どもたちとの再会を喜んでおられた。また、絵本選びの際には自分が昔好きだった絵本に触れることで当時の自分を振り返ることもできた。 ・ 保育実習では、短時間（30分）ではあったが幼児と実際にふれあうことで理解を深めることができた。また、交流クラスの保育士とのかかわりを通して、保育士という職業に関心を持った生徒もいた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びの意義について学んだあと、遊びの一つとして読み聞かせを取り上げた。読み聞かせのスキルを図書館司書から学び、本の傾け方、声の大きさ、読む速さなどについて、講習会で練習し、保育園での実習で実践するという流れを計画した。 ・ 保育実習では、事前に読み聞かせに関することと幼児とのかかわり方について課題を持って取り組むよう計画し、保育士の幼児への関わり方も参考にしよう助言した。 			

3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・絵本の読み聞かせ講習会

学習前は人前で絵本を読むことに抵抗を示す生徒もいたが、講習会を通して絵本の楽しさや自分の小さいときの体験を思い出し、笑顔で読み合う姿が見られた。学んだことを活かして、保育実習で絵本を読みたいという気持ちを持った生徒が多かった。講習会の後も熱心に練習に取り組む生徒もいた。

- ・保育実習

読み聞かせの講習会を受け、実習に臨んだので、前向きに参加している生徒がほとんどだった。実際に読み聞かせを行い、素直に反応してくれる園児を見てうれしい気持ちになったり、いとおい気持ちになったりした様子が見られた。

これらの学習を通して改めて自分自身の成長や、これまでに自分にかかわってきた家族、地域にも目を向けることができた。家族や周囲の人に対する感謝の気持ちが芽生えるとともに、自分の将来について考えていこうとする様子が見られた。

(学力育成の視点から)

- ・講習会で学んだことを意識して保育実習に臨むことができた。園児が喜んでもらえるように工夫する力を向上させることができた。

- ・実際にふれあうことで、幼児への理解を深めることができた。

4 課題や今後の展望

・今年度は、みのり保育園が園舎の新築で学校の隣の旧石見幼稚園に移転中だったため、日程の調整や時間の調整ができた。みのり保育園での実習は初めてだったが、実施後の振り返りで今後も継続して行う予定である。来年度は新築された元の場所に保育園が戻るため、移動方法をさらに検討する必要がある。本校は学年4クラス編成が続いており、日程調整が難しい。みのり保育園は第2保育園も校区内にあるため、スクールバスを利用して2つの園と交流して日程調整することも検討する予定である。



ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立第二中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	総合	身近な課題を仲間と探究し、解決しよう	地域企業の方・市役所職員の方
ねらい		身近な課題について仲間と一緒に調べ、地域に出かけたり地域の方の話を聞いたりして解決方法を考えることを通して、地域への理解を深め、ふるさとを大切にしようという気持ちを高める。	
<p>1 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループによるブレインストーミングで、身近な課題を見つける。 ・解決に取り組みたい課題を選び、一緒に活動する仲間とグループを作る。 ・図書やインターネットを活用して課題やその解決方法について調べる。 <p>グループによっては地域企業や市役所に出かけてインタビューを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くのグループが選んだ「地域おこし」の課題に関連して、地域発展のインフラとなる山陰道(浜田・三隅道路)工事現場見学を行う(事前学習として建設会社の方の講話を実施)。 ・グループごとに調べたり課題解決のために取り組んだりしたことを発表し合う。 ・地域で起業され、活躍しておられる方の講演会を実施。 			
<p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題について自分たちで調べたり考えたりする中では難しさばかりを感じがちであるが、実際に地域の発展のために取り組んでおられる方々の思いを聞いたり、その現場を見て知ること、ふるさとを大切にしたい気持ちに共感したり、その発展に対して肯定的な気持ちになることを意図した。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちに身近な課題を考えることからスタートし、自分に関係のあることとして取り組みを進める中で、地域の課題と向き合い、解決に取り組んでおられる方々のお話を聞くことで、自らのこれからの生き方についての考えを深め、現在行っている中学校での学習の意義を見つめなおすことで、学習意欲の向上に結び付けることを意図した。 			
<p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域の人と関わりつながっていくことを頑張りたい」、「地域の課題を解決していきたい」という感想が多くみられ、ふるさとへの愛着が高まったり、地域への貢献意欲が高まったりしたことがうかがえた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働くということが地域や社会の発展に貢献していくことを感じたり、現在の学校での学習が将来のキャリア形成につながることを理解できたりしたという内容の感想が多く、課題解決に向けての気持ちの高まりや学習意欲の向上につながったと考えられる。 			
<p>4 課題や今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒による調べ学習の発表会が校内、学年内にとどまったので、外部機関に向けて発信したり、校外とのつながりを一層持てるようにしたりすることで、学習を発展させていきたい。 			



ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立第三中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	総合	ふるさと学習	まちづくりセンター（周布・長浜・大麻） 地域スタッフの方
ねらい		(1)ふるさと浜田に愛着をもち、魅力を感じ、他の人に伝えることができる。 (2) 人との関わりを通して伝え合う力を高める。 (3) ICTの活用等も生かしながら、根拠を明らかにして・まとめ・表現する力を身に付ける。 (4) 調べたり、提言したり表現したりすることを通して、自己の生き方について考える。	
<p>1 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜田市の魅力を5つのテーマ（①石見神楽〈伝統文化〉②河野乾魚店〈特産物〉③石州和紙〈伝統文化〉④扇原茶園〈特産物〉⑤浜田城址・北前船〈歴史〉）に分け、修学旅行の際にチラシにして東京の企業に配布した。地域の方に講師になっていただき、身近な浜田の魅力を再確認することができた。また、自分から発信することで相手を意識して伝える力を高めることができた。 <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に地域の方の話を聞き、浜田や校区の特色について、自分がふるさと浜田の魅力を知る機会を持つことで、地域への愛着や誇りを持つとともに、ふるさとのために将来貢献しようという意識を育てる。地域の方の意見やアドバイスを取り入れ、その魅力を、浜田を知らない人にも知ってもらおう。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の意見やアドバイスを取り入れ、浜田を知らない人へ発信することでコミュニケーション能力を向上させる。 ・相手を意識して話すことで想像力を育む。 <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な背景を持つ地域の方から、様々なテーマで話を聞き、物の見方や考え方を広げる経験は貴重な時間であった。身近な地域の方から話を聞くことで地域への愛着を深め、チラシという形で発信することで地域への誇りをもつことができた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行で、ふるさと学習のまとめの活動として班別自主研修中に事業所を訪れ、各自が作成したチラシを渡すことができ、自分の作ったチラシで浜田を宣伝する達成感を味わうことができた。 <p>4 課題や今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に地域の方と関わる機会を増やし、地域のことに関心を持ち、地域の活動や行事に自主的に参加するなど地域のために行動できる生徒を育てていく必要がある。 			



ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立第四中学校		
学年	主な教科等	主に関わる单元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
全学年	総合的な学習	しめ縄づくり交流会	まちづくりセンター 地域講師
ねらい	稲作活動のしめくくりとして伝統文化を学ぶ中で異年齢と交流し、学校や地域の歴史を知る。		
<p>1 取組の概要</p> <p>会の中で学校や地域の歴史に関するクイズを行い、ふるさとへの愛着を育む。また、中学生が小学5・6年生、職員、地域講師からなるグループのリーダーとして会の司会進行を行い、伝統文化（しめ縄の意味、作り方）を学ぶ中で、地域の方の思いに触れる。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閉校を迎える学校や学校を支えてきた地域への愛着を育むために、学校草創期からの田畑活動を取り上げたクイズを行った。 ・地域への貢献意欲を醸成する動機づけとして、会に先立ち長年学校の田畑活動を支援してくださった方へ感謝状贈呈式を行った。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生が小学5・6年生、職員、地域講師からなるグループのリーダーとして会やクイズの司会進行を行うことで、コミュニケーション能力、伝え合う力の育成を図った。 <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで行っていた活動の歴史、地域とのかかわりについて、改めて深く知ることができた。先人先輩の思いに触れ、学校地域への愛着や誇りを養うことにつながった。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢で構成されたグループのリーダーとしてふるまうことで、主体的にコミュニケーション能力を高めることができた。 <p>4 課題や今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校が長年行ってきたふるさと教育に関わる行事等は、地域にとっても長年続いた行事である。閉校を迎えるにあたり、今後も必要有効なふるさと教育に関する「ひと、もの、こと」については校区の小学校と連絡調整を図り、継承していきたい。 			



ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立浜田東中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	総合的な学習 技術・家庭	ふるさと学習 石見畳ヶ浦の巻 日常食の調理 ～ますますおいしい魚の調理～	浜田市観光協会 島根県立石見海浜公園 国府まちづくりセンター 浜田市水産振興課、商工労働課 寺本浩一さん(シェフ)、その他
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとを見つめ直し、ふるさとに関心を持つ。 ～ふるさとの良さ、そこで働く人々～ ・ふるさとに関する色々な情報を収集し、仲間と一緒に、その情報をまとめていく力を身につける。 	
<p>1 取組の概要</p> <p>校区内をめぐる、施設を利用することで、郷土への関心を持たせる。特に、畳ヶ浦の地層の学習を通し、今後の理科教育の学習にいかす。また、炊さん体験を通して、協力して作業を行くことの意義を感じさせる。学習した内容は自分たちで作った「はまだ検定」で振り返る。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区内の自然について学習し、「ふるさと浜田」に関する理解を深める。 ・2学期以降取り組んだ、浜田市の水産業の学習や、校外学習として出かけた「津和野」と関連し、津和野から県外・国外に発信している人の話を聴くことで、ふるさと島根への理解を深め、総合的な学習の時間のテーマ「ふるさと学習」の発展の場とした。 ・総合的な学習の時間で扱った内容を、他教科の学習に生かすために教材を選定した。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班活動を通じて、コミュニケーション力を身につける。 ・学習した内容を「はまだ検定」作成をとおしてまとめることで、情報を踏襲する力をはぐくむ。 ・技術・家庭では、総合的な学習の時間で取り扱った題材をさらに深く学ぶために、実際に浜田で水揚げされる魚を食材に扱った料理を考案した。(R6、1月～2月実施) <p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区内の自然を歩いて回することで、道の確認だけでなく、万が一の出没が予想される熊への対応策を確認した。 ・係活動をとおして、地域の公共施設を大切に扱う面が見られた。 ・考案した料理を浜田市水産振興課に提案することで、郷土の食材に興味を持つ姿が見られた。また、新聞やTVなどのマスコミに取り上げてもらったことでふるさと浜田への思いを高めることができたと考える。(R6、1月～2月実施) <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで詳しく知ることのなかった畳ヶ浦の現状や課題について理解した。 ・「はまだ検定」をとおして、浜田市の特産物や名所・旧跡など知ることができた。 ・浜田市の食材をもとに、様々な調理の方法や手順を確認することができた。 			

4 課題や今後の展望

昨年度に引き続き、この内容での取組を行った。校区内の海浜公園や事業所にご協力いただきながら活動することができた。単なる地理的な学習だけで終わらず、生徒たちから出た疑問や課題を探究することができたのかどうか、考える必要がある。また、地域貢献の視点でみると、校区内の自然を大切にする意識はそだったものの、この取組だけで効果を図ることは難しいと考える。

5 活動の様子



〈豊ヶ浦でボランティアさんの説明を聞く様子〉



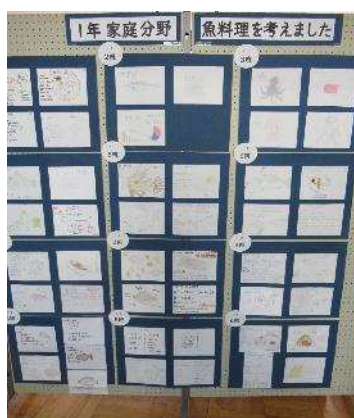
〈はまだ検定作成の様子〉



〈水産関係職場見学の様子〉



〈津和野での研修の様子〉



〈技術・家庭での取組〉（技・家の写真はR4年度のもの。本年度は2月14、16日実施予定）



ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立金城中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	総合的な学習 の時間	ふるさと再発見学習	まちづくりセンター（6地区） 各地区で訪問した施設等
ねらい		ふるさとの「ひと・もの・こと」と関わる中で、ふるさとを誇りに思い、ふるさとに対する愛着をもつ心豊かな生徒を育てる。	
<p>1 取組の概要</p> <p>ふるさと金城の魅力と課題を知り、地域課題解決のために自分たちができることを考えたり、金城の魅力を様々な方法で発信したりする取組。</p> <p>①6グループ(6地区)に分かれ、各地区のまちづくりセンターの方やその地区で働いておられる方等に質問したいことを考える。</p> <p>②各地区のまちづくりセンターの方や住民の方に来校していただき、自分たちが知りたいことを質問して、答えてもらう。 (この場では、あえて生徒の質問に答えず、③の「まち巡り」の際に、自分で直接質問するように助言してくださる場面もあった。)</p> <p>③地区ごとに、まちづくりセンターの方がコーディネートしてくださった場所を巡る。 各場所で話を聞いたり実際に見学・体験したりすることをおして、地域の魅力や課題を知る。また、疑問に思ったことや知りたいことを地域の方に質問し、答えてもらう。</p> <p>④まとめを行い、学んだことを模造紙にまとめたり、ふるさと金城を元気にするために自分たちができることを考えたりし、模造紙等にまとめ発表する。</p>			
<p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりセンターの方々や地域の方々との交流を通して、生徒の地域貢献意欲を高める。 ・金城のために尽力している人々の話を聞いたり、実際に地域を巡ったりすることで、生徒がふるさとへの愛着と誇りをもつことができるようにする。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との関りの中で、コミュニケーション能力を高める。 ・協力しながら金城の魅力を発信したり自分たちができることを考えたりする力をつける。 			
<p>3 生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等) (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金城の魅力や課題についてもっと詳しく知ったうえでまとめや発信を行いたいと資料やインターネットでさらに深く調べるなど、地域貢献への意欲が高まった。 ・地域の方々の中学生に対する期待や中学生のことを大切に思っている気持ちをくみ取り、地域活性化の担い手としての自覚をもった。 ・「金城は素敵なところ」「将来、金城に貢献したい」という気持ちをもつ生徒が増えた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者と協働し、課題解決や地域の魅力発信に向け、工夫して取り組む力が高まった。 			
<p>4 課題や今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々の思い・願いと学校側の考え・願いを、事業前にしっかりと擦り合わせる。 ・地域側と事業後の振り返りを引き続きしっかりと行うこと。 ・P D C Aサイクルを大切にしてふるさと教育を進めていくこと。 			




ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立旭中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	総合的な学習の時間	旭町の再発見ツアー 旭町の新しい行事の提案	各地域まちづくりセンター 地域の生産者 浜田市教育委員会旭分室
ねらい		生徒と地域の方との意見交換を通して生徒主体の地域行事を計画することで、問題解決する資質や能力をはぐくむとともに地域活性へ寄与する。	
<p>1 取組の概要</p> <p>中山間地域に位置する旭町は人口減少や高齢化などの地域課題を抱えている。そのような地域の現状に対して、生徒たちは課題意識を持ち、自分たちで新たな地域の良さを活かした行事を企画することで地域が盛り上がるのではないかと考えた。</p> <p>地域の良さを学ぶために、旭分室にコーディネーターとして入っていただき各地域まちづくりセンターの協力のもと旭町の歴史・文化・自然を体感できる「再発見ツアー」に参加した。その中で、生徒はこれまで知らなかった旭町の良さを学ぶことで、新たな地域行事の計画に取り組んだ。具体的には、旭町にある5つの地域(今市、都川、市木、和田、木田)ごとにグループを作り、地域の方との打ち合わせを行いながら行事計画を行った。そして、文化祭を通じて全校生徒や地域の方へ地域の良さを伝えるとともに行事計画を発表した。</p>			
<p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>○旭の発展のために活動しておられる方々の取組、地域の魅力や課題について旭町再発見ツアーを通して、現状理解を深め、今後ふるさとを大切にしたい気持ちを養うとともに、地域のために自分に何ができるか考え、行動しようとする態度を育てる。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>○実際に地域の方々と行事計画の打ち合わせ会をすることで、コミュニケーション能力を向上させるとともに問題解決する資質や能力を育む。</p>			
<p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>○旭のまちに出かけ、地元で地域の発展のために活動しておられる方々に直接お話を聞くことで、旭の現状やその人の思いを知ることができ、旭町のよさとともに課題を見いだすことができた。そして、今後、自分たちにできることは何かを考えるきっかけとなった。また、生徒は、地域の方々に支えられていることに気づき、地域への愛着や誇りをより強く持つようになったと思われる。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>○課題解決に向けて、他者と協力し工夫して取り組む力が高まった。また、地域の方々と打ち合わせ会を通して、知りたいことを尋ねたり、言いたいことを伝えたりする技能が向上し、コミュニケーション能力が高まった。</p> <p>○自ら見出した課題や行事計画について整理し、自分の思いをパワーポイントや掲示物でまとめ、文化祭で発表することで、情報発信能力を高めることができた。</p>			
<p>4 課題や今後の展望</p> <p>今年度の活動を通して、旭町のよさとともに課題を理解し、より地域を盛り上げるための行事計画を行うことで、自分の考えを持ちそれを表現することができた。今後も探究のサイクルを回し、学びを深めていきたい。</p>			



ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立弥栄中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	総合	弥栄の魅力発信	弥栄の自然、特産品、町内事業所 杵束まちづくりセンター 安城まちづくりセンター
ねらい	<p>○ 地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用することを通して、郷土の一員としての自覚を高め、郷土を愛する気持ちを育むとともに、自己の生き方を考える基盤を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流を通して、故郷に愛着を持ち、すすんで地域社会に貢献しようとする態度を育てる。 ・地域社会の実態を知り、自分の考えをもち、発信する力を育てる。 		
<p>1 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生が「弥栄の魅力を発信しよう」というテーマで取り組んだ。2つのまちづくりセンターにお世話になり、地域の事業所での見学やインタビューを行い、地域の魅力を深掘りすることができた。地域の方にも授業に参加していただき、有効なPR動画にするための改善策を見つけるために意見交換をすることができた。 ・修学旅行では、東京の日比谷しまね館を訪ね、弥栄の魅力発信の方法について学んだ。 ・動画配信やパンフレットの設置により弥栄の魅力をしっかりと発信することができた。 <div style="text-align: right;">  <p>地域の方への作品発表会</p> </div>			
<p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (故郷への愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画で弥栄の魅力を発信するために、どんな魅力をどのような形で発信すればよいのか試行錯誤することとなった。そこで、地域の「ひと・もの・こと」と深く関わり、人々の温かい思いを理解していく中で、故郷の魅力を再認識し、故郷への愛着や誇りもつことができた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「誰とでもコミュニケーションがとれる」「協力して課題を解決したり、より良いものを目指すことができる」「見通しを持ちながら準備を進めることができる」など、「弥栄の魅力発信」の活動を通して、地域の方々と深く意見交換を繰り返し進めていく中で、これらの力を身につけさせたいと考えた。 			
<p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） (故郷への愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域やまちづくりセンターの方々が授業にも参加してくださり、積極的な意見交換をする中で、生徒は故郷の魅力を再発見するとともに、人々がつながりを持ち続けることの大切さに気付くことができた。また、地域の施設や自然や人のよさについて発信するまでの過程で、生徒たちの故郷に対する思いを強固なものにすることができた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弥栄の自然や特産物について調べたことをもとに、PR動画やパンフレットを考え、地域の方々と意見交換をしたことは、とても効果的であった。以前に比べ、誰とでもコミュニケーションがとれるようになった。協力して課題を解決したり、より良いものを目指したりできるようになってきた。 			
<p>4 課題や今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりセンター、外部講師との連携をとるための準備が必要 ・PR動画の宣伝活動を継続し、再生回数を増やして弥栄の魅力を伝えていきたい。 			

ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立三隅中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	総合的な学習 の時間	防災学習	防災士，まちづくりセンター 地域の方，三隅中央会館，避難所設備 三隅消防署，三隅防災自治課
ねらい		災害を知り、防災を考え、行動できる中学生になろう	
<p>1 取組の概要</p> <p>①防災ガイダンス : 今後の防災学習について説明を聞く。 2018年西日本豪雨災害のビデオを視聴する。 お店にいるときに、大雨による避難指示が出た場合、どうやってどこに避難をするか、グループワークを行う。</p> <p>②防災学習講演会 : ふるさとの災害（水害：昭和58年）や防災について、防災士のお話を聞く</p> <p>③避難所設営体験 : 三隅中央会館で、避難所設営体験等を行う。（防災自治課、まちセン）</p> <p>④住民参加型防災訓練 : 三隅町全体での防災訓練。 防災ヘリ見学 : 三隅中央公園競技場にて防災ヘリ訓練の見学。（防災自治課、消防署）</p> <p>⑤災害対応ゲーム「クロスロード」 : 災害の時に起こりうる様々な出来事についてどのように行動をするのか考え様々な意見や価値観を共有する。（防災自治課、まちセン）</p> <p>⑥避難所運営ゲーム「HUG」 : 避難所で起こりうる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験する。（防災自治課、まちセン）</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力をつけるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとの災害を自分の身近なこととして捉え、もしも被災したらどのような行動をとればよいか、地域の一員として防災について考える力を身に付ける。 そのために防災士の方から被災時の役割や行動等を聞いたり、避難所体験等から事前準備の必要性や自分にできることを考えたりする活動を取り入れた。 ・三隅町のハザードマップなどの資料を活用して、「どこにどのように避難をしたらよいか」を考えた。 ・地域の人と「クロスロード」や「HUG」の活動を行うことで、お互いに意見を出し合い、価値観を共有し、「三隅のために」というふるさとへの愛着や貢献意欲があがるようにした。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災に関する知識が深まるように、「講義」「活動」「体験」を取り入れた。 			

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

- ・防災士の方からお話を聞き、ふるさとの災害時の被害状況を知ったり、災害時と現在のふるさとの姿を比較したりするなど、災害を身近なこととしてとらえる力がついた。
- ・「HUG」では、三隅中学校が実際に避難所になったらという想定のもと活動を行い、地域の方と一緒に活動することで、（中には、保護者の方の参加もあり）、家に帰ってからも防災についての話題があがるなど、ふるさとへの貢献意欲があがった。

（学力育成の視点から）

- ・三隅町の防災マップを使うことで、見方や活用の仕方を知ることができた。
- ・自分の家から避難所までの距離はどのくらいか、洪水リスクがあるか、防災バッグに何を準備するか等、災害時の危険を予測する力がついた。
- ・「HUG」では、瞬時に状況を判断して、協力・役割分担をして活動を行う力を養うことができた。

4 課題や今後の展望

今年度は、防災学習の避難所設営体験に加え、新たに「クロスロード」・「HUG」などの体験活動を取り入れた。これらの活動はすべて地域の方との活動にした。

今までの反省にあがっていた「生徒の自主性」を引き出すために、活動によって地域の大人の方は見守るだけの形にしたり、地域の方と一緒に考える形にしたり、地域の方も同じ活動をするけれども同じグループにはせずに、後で意見交換などを行うことなどにした。それにより、生徒は大人に頼らずに自分たちだけで考え協力して取り組むことで、防災への意識が高まるとともに、ふるさと三隅における防災への意識も高まったように感じた。

また、地域の方と同じ空間で活動をとら行うことで「ふるさと」への貢献意欲があがったように思う。

